

2016年12月8日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

CBS9106(SL-801)に関するASH年次総会での発表について

当社が創出し2014年12月に米国Stemline Therapeutics Inc.(以下「Stemline社」)へライセンス導出した抗癌剤候補化合物CBS9106(同社における開発コード:SL-801)について、2016年12月3日から6日まで米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された米国血液学会(ASH、American Society of Hematology)第58回年次総会においてポスター発表がおこなわれましたので、その概要をお知らせします。

今回の発表は、慢性骨髄性白血病細胞株K562、急性骨髄性白血病細胞株MV4-11、多発性骨髄腫細胞株RPMI-8226、ホジキンリンパ腫細胞株L-428を、Stemline社が臨床開発中の抗癌剤候補化合物SL-401とSL-801の単剤および併用で処理し、SL-401とSL-801の相乗効果が確認されたものです。

同社研究グループは、ここで示された相乗効果のメカニズムは現在研究中であるとした上で、これらの有望な結果は今後広範な血液癌に対するSL-401とSL-801の併用治療の開発を進める論拠となる(“These promising results provide rationale for further development of SL-401 and SL-801 combination therapy in the treatment of a broad range of hematologic malignancies.”)と結論づけています。

発表の詳細は、Blood誌ウェブサイトに掲載されているアブストラクト(抄録)をご参照ください。

<http://www.bloodjournal.org/content/128/22/4724>

“SL-401, a Targeted Therapy Directed to the Interleukin-3 Receptor (CD123), and SL-801, a Reversible Inhibitor of Exportin-1 (XPO1), Display Synergistic Anti-Tumor Activity Against Hematologic Malignancies in Vitro”

(参考訳)『インターロイキン-3受容体CD-123を標的とする分子標的薬SL-401とXPO1可逆的阻害剤SL-801の併用イン・ビトロ試験において、複数の血液癌に対する相乗効果が示された』

また、掲示されたポスターはStemline社ウェブサイトに掲載されています。

http://www.stemline.com/ScientificPresDownloads/ASH%202016%20poster%20-%20SL-401&SL-801_FINAL.pdf

SL-401は、Stemline社の開発パイプラインの筆頭に位置づけられている抗癌剤候補化合物です。

現在は、芽球形形質細胞様樹状細胞性腫瘍(BPDCN)を対象とする単剤臨床第2相試験のほか、急性骨髄性白血病(AML)・慢性骨髄性白血病(CML)を含む進行高リスク骨髄増殖性腫瘍などを対象とする単剤臨床試験や多発性骨髄腫(MM)を対象とする多剤併用臨床試験が進められており、同社は今回のASH年次総会でこれらに関する良好なデータの報告も行っています。

またSL-401は、米食品医薬品局(FDA)によるBreakthrough Therapy(参考訳:画期的治療薬)の特別措置指定を受けています。

本件による当期業績への影響はありませんが、導出先Stemline社におけるCBS9106(SL-801)開発の着実な進捗を示すものであり、当社の中長期的な企業価値の向上に寄与するものと考えています。

以上